



町中心部を堂々と行進する消防団員

防火への意識も新たに 士気高く消防出初め式

町消防出初め式は1月8日、町消防団（長岡宏団長）と町婦人消防協力隊（元村トモ隊長）の団員ら約300人が参加し、社会体育館で行われました。

整列した団員らの観閲の後、統監の中村哲雄町長は「地域の安全と安心の確保に努め、今年こそ無火災を達成してほしい」と訓辞を述べ、長岡団長は「住民の願いである安全安心の確保に一層努力します」と誓いました。

その後、団員らはラッパ隊を先頭に隊列を組み、町内を士気高らかに行進し、防火への意識を新たにしました。

町では、平成4年、6年、10年の各1件を除き、毎年複数の火災が発生しています。火の元には十分に気を付けましょう。

心触れ合いぽっかぽか 地域の達人たちと遊ぶ

地域の達人と遊ぶ（町公民館主催）は1月12日、茶屋場、四日市地区の子どもたちを対象に、茶屋場自治会館でにぎやかに行われました。

「達人」は高砂高齢者大学の受講生の皆さん。早速、おばあちゃんたちから手ほどきを受けながら、ひつつみとおにぎりを作りました。おいしい料理で腹ごしらえした後は、いよいよゲームの始まり。37人の参加者が、チーム対抗戦でお手玉や輪投げ、ニュースポーツのスカットボールで遊びました。

「一緒に遊んでもらって楽しかった」と話す子どもたち。達人たちも「やっぱり子どもの姿を見られるのはいいなあ」と、どちらも心温まる触れ合いの時間を過ごしました。



お手玉を教わり、夢中になる子どもたち

3回目の成人式を祝い 健康と一層の活躍誓う

60歳のつどい（同実行委員会主催）は1月14日、町総合センターを主会場に開かれ、参加した34人は「3回目の成人式」を祝い、今後の健康とより一層の活躍を誓いました。

参加者は、健康福祉課職員から健康づくりの体操や食事の指導を受けた後、郷土食作りに挑戦しました。そばがき作りは男の出番。一気に練り上げ、あっという間に完成しました。午後は、正福寺住職の佐々木綱光さんから「これからの人生、どう生きるか」と題しての法話を聴きました。

遠藤勝芳実行委員長は「同年代の仲間のつながりを大切にしながら、今後もますます地域を盛り上げていきたい」と意欲をみせていました。



グループに分かれ、そばがきを作る参加者